

形態率は、「圧迫感の計測に関する研究・1（圧迫感の意味と実験装置）」（日本建築学会論文報告集第 261 号，昭和 52 年）において、「建築物の外形の水平面立体角投射率」と定義され、建築物等による圧迫感を計測する指標のひとつである。

形態率の算定方法は、図 14-1-1 に示すとおり、日照・日影の分野で用いられている天空率と同様の概念であり、具体的には魚眼レンズ（正射影）で天空写真を撮影したときに、写真内で対象建築物が占める面積比（％）として表される。

（算定式）当該地点における対象建物の形態率

$$c \text{（形態率）} = (S_0 / \pi r^2) \times 100 (\%)$$

ここで、 S_0 ：建築物の外形を、測定点を中心として天球面に射影したもの（ S ）を、さらに測定点を含む水平面に正射影した面積（＝天空写真内で対象建物が占める面積）

r ：天球を、測定点を含む水平面に正射影したものの半径（＝天空写真の半径）

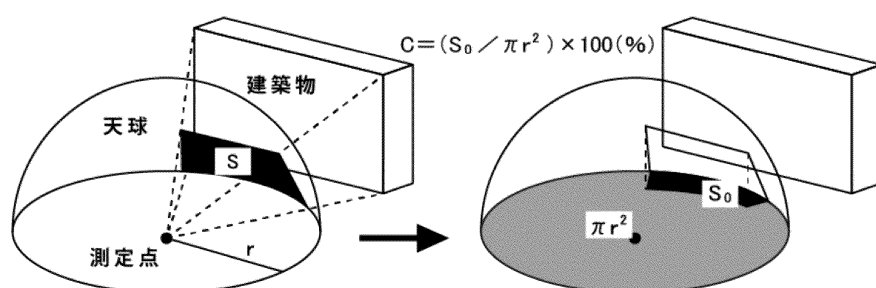


図 14-1-1 形態率の算定方法